

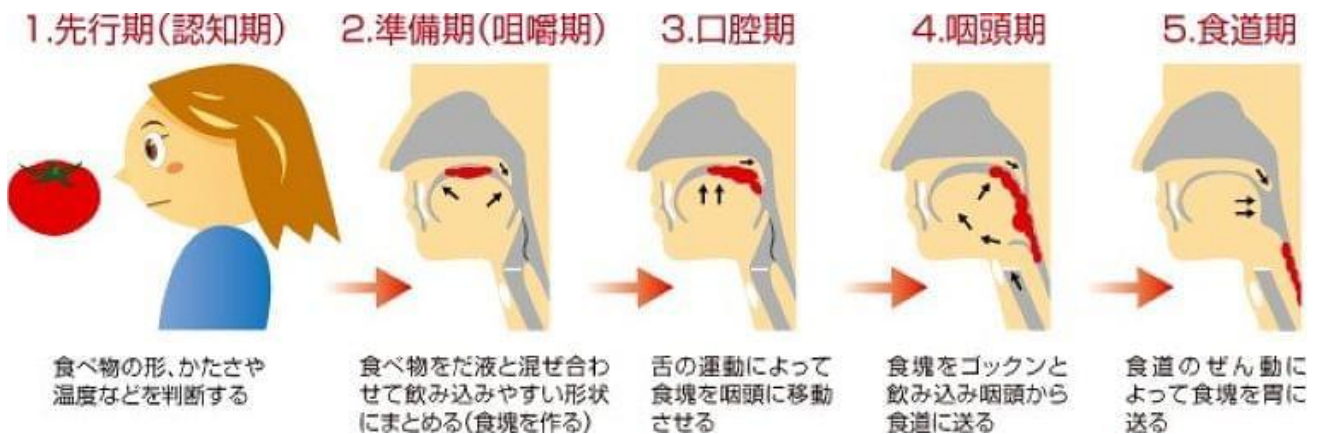


地域支援コラム

【1学期の巡回相談について】

○摂食指導 (A 小学校：3年生男子)

A 小学校から、遺伝性神経筋疾患のある3年生男子児童に対する摂食指導について相談を受けました。過去に誤嚥性肺炎で数回入院している経緯があり、摂食に関して不安を感じておられる様子でしたので、まずは、食形態、咀嚼、嚥下機能などの観察を行いました。その結果、きざみ食が細かいため、舌、顎ともに上下運動のみで、ほぼ咀嚼せずに飲み込んでいる様子が見受けられました。このことから、嚥下の仕組みを説明しながら、以下の助言をさせていただきました。



(図:嚥下食ドットコム HP より)

助言内容

- ①食べ物を目で捉えてはいると思うが、手元を見て食べていないので、手元を見て食べ物をしっかり認知させて食べさせること(先行期)が課題である。
- ②食形態としては離乳中期～離乳後期が適している。
- ③嚥下する力が弱く咽頭に食べ物が残っている可能性がある。口の中でまとまりにくいもの(ちくわ、筍、キノコなど)や貼り付きやすいもの(わかめや海苔など)、パンやジャガイモなどのパサつくものなどは飲み込みにくく、一回の嚥下では食道に送り込めず、咽頭に食べ物が残る傾向がある。そのため、トロミをつけたり、残留しやすいものを食べた後は牛乳やお茶などを飲むように(交互嚥下)したりして咽頭をクリアにしながら食べるようにすると良い。
- ④寒くなってきて、鼻が詰まったり、喉がはれたりすると誤嚥しやすくなるが、たとえ誤嚥しても体力があればすぐに肺炎になることはない。

○摂食指導・生活指導（B 幼稚園：5歳女児）

B 幼稚園からは、水頭症 シャント施術 右まひのある5歳園児に対する摂食指導、生活全般について相談を受けました。

- ・摂食に関して：食形態は、離乳食中期～後期で、お弁当を3～5mm程度に刻んでトロミを付けて食べているとのことでした。食事の状況としては、以前は普通のスプーンを左手で握りこんで食べていましたが、最近ではスプーンを持つのを嫌がり、全介助で完食する日もあればほとんど食べない日もあるとのことでした。水分もトロミを付けて飲んでいるようでした。まずは、食形態、咀嚼、嚥下機能などの観察を行いました。お弁当メニューは白飯（少し柔らかめ）、シチュー、棒チーズ、1cm角くらいに切ったチーズパン、ゴマ豆腐、ミルク、お茶でした。姿勢は、児童椅子の背中とお尻にクッションを敷き、股ベルトで固定し足置きがあることで座ることができていました。嫌なときは、手で押し返したり、身体を反ったりして回避し、本児が絵本を見ている間に先生が「1 2の3。」と声かけをして口に運んでいました。

助言内容

- ①食の機能的には問題はないが、口を閉じて咀嚼ができないので送り込みせずに丸飲みをしている状態である。
 - ②普通食の形態はまだ難しいため、ペースト状に近い柔らかい物が食べやすい。
 - ③食べる意欲があれば自食の取組みもよい。気持ちが向いているときに、短時間取り組む。
- ・歩行、移動について：教室からトイレへの移動はPCW 歩行器を使っていました。最近は短下肢装具を嫌がってしまうとのことで、PCW 歩行器による歩行では装具なしでハイカットシューズを使用していました（前輪をロックして方向転換も可能）。介助歩行は両手介助を主に、片手でもできることがありました。階段は手すりを持って昇降し1～3階まで3往復程できました。

助言内容

- ①歩行時に右が尖足気味でかかとが浮いてしまい、PCW 歩行器での歩行も右足が内転してしまっているため、できるだけ装具を使用してほしい。
- ②上半身はしっかりしているが、右足首が固いため、ストレッチや歩行、階段昇降を続けてほしい。

- ・コミュニケーションについて：「はい」「いいえ」など表情や仕草で表現できました。発達検査では認知面1歳4か月で発語（先生の名前、色等）あり。視力は0.1くらいで絵本を見たり、手元のお弁当箱へ手を伸ばして払ったりすることが可能で、人や声は雰囲気判断しているようでした。比較的静かな場面では、教員の言葉や気になる園児の言葉を真似ることもありました。絵本の言葉を一緒に言うことが多く、ページをめくって欲しいときに支援者の手をクレーンすることがありました。

助言内容

- ①全体の指示は声を聞いている様子だが、ざわざわした状況では、指示はとおりづらい様

子。常に介助に入っておられた看護師とは至近距離でやりとりをしており、その声は聞いているが、教室の賑やかな雰囲気では前に立つ教員の声や状況が判断しづらいため、側にいる支援者の言葉による説明が必要であることを伝えた。

- 手指操作、暑さ対策について：ペンを持って描くことが好きなようでした。また、学習（色水遊び＜園庭での活動＞）では、暑さに弱く長い活動は見通しが持ちづらいため、階段昇降やPCW 歩行器での歩行をしてから活動へ短時間参加しました。色水の入ったペットボトルを左手で持とうとすると、重さで手を放してしまうことがあり、カップへは教員と一緒に色水を注いでいました。途中、暑さで顔をたたく自傷行為や教員へあたる様子がみられました。教室を出ると廊下やトイレのエアコンがない場所でも、暑さで座り込んでしまうことがありました。

助言内容

- ①見えづらさを補えるよう、言葉かけをしてコップやペン等を手で触って確認してから活動する。
- ②手の感覚や操作性の向上のため、スライム等の感触遊びや、コップやペンを握る場面を設け、手に感覚を入れることを今後取り入れてみてはどうか。
- ③暑さ対策として、首元を冷やすクーリンググッズ等の使用。